

れるとともに、活発な議論が行われた。当研究所からは林玲子（国際関係部長）、小島克久（同部第2室長）の2名が参加し、林が以下の報告を行った。

林 玲子（国際関係部長）「各国のケア人材国際移動の現状」“The actual situation of international migration of care personnel”

（小島克久 記）

## フランス国立人口研究所（INED）訪問

社人研は2016年8月に、フランス国立人口研究所（L'Institut National d'Études Démographiques : INED）と研究に関する協力覚書を調印した。INEDは1945年に創設されたが、その後1951年に旧人口問題研究所の岡崎文規所長が視察・訪問するなど、社人研との関係は長い。筆者は2017年1月26日にINEDを訪問し、マグダ・トマシニINED所長、ウィリアム・モルミー国際関係協力部長および同部スタッフと面会し、協力覚書に基づいた今後の活動などについて協議した。現在、社人研とINEDの共同研究として、石井太人口動向研究部長、是川夕人口動向部主任研究官、社会保障応用分析研究部大津唯研究員らが死因研究プロジェクトを行っており（MODICOD）、引き続き今後の共同研究の拡充・深化が期待される。

（林 玲子 記）

## マンチェスター大学

### 「戦後日本の少子高齢化に関する政策と実践に関する日英セミナー」

2017年1月28日、英国・マンチェスター大学は、日本学術振興会の支援を受け、「戦後日本の少子高齢化に関する政策と実践に関する日英セミナー」を開催した。セミナーはマンチェスター大学保名綾博士により企画され、日本の少子化対策、優生・優境政策、介護施策、人口政策を専門とする日本人、英国人研究者が参集し、報告・議論が行われた。筆者は20世紀における日本の人口政策、特に出生関係の施策の変遷について報告した。少子高齢化は現在進行形であり、現実的な問題解決が研究対象となることが多いが、歴史的な視点から施策をとらえ直し、かつ日英の比較も含めて状況を俯瞰する機会が与えられ、有意義なセミナーであった。

（林 玲子 記）

## ドイツ連邦人口研究所（BiB）訪問

ドイツ連邦人口研究所（Bundesinstitut für Bevölkerungsforschung : BiB）はドイツ・フランクフルトから40km程度西に位置したウィースバーデンにあり、ドイツ連邦政府に属した国立研究所で、ドイツ連邦統計局とのつながりが深い。筆者は2017年1月30・31日にBiBを訪れ、社人研の紹介をすると共に、ノルベール・シュナイダー所長およびフランク・スワイアシュニー人口変動・世界人口研究グループ長および同グループスタッフと研究協力および国連人口開発委員会などに関する意見交換を行った。ドイツには、マックス・プランク人口研究所もあるが、マックス・プランクと比べBiBは連邦政府により近い組織であり、ドイツ政府に対する政策提言なども主要な業務の一つであるとのことであった。

（林 玲子 記）